

生物多様性とは

地球上の生物は、約40億年に及ぶ進化の過程で多様に分化し、それぞれの生息場所でさまざまな関係を築き上げています。生物多様性とは、様々な個体からなる多くの種がいろいろな環境の中で生息し、又は生育している状態をいい、三つのレベルの多様性から成り立っています。

遺伝子の多様性：同じ種の中でも、個体によって体の形や行動などの特徴が少しずつ異なっていること。

種の多様性：動植物から細菌などの微生物に至るまで、いろいろな生物がいること。

生態系の多様性：気候や地形、地質などに応じて、砂漠や干潟、森林などいろいろな自然が存在すること。

生物多様性のめぐみ(生態系サービス)

○すべての生命の存立基盤

地球上の生物は、生態系というひとつの環の中で深くかかわり合い、つながって生きています。多様な生態系は、酸素の供給・二酸化炭素の吸収、気温・湿度調節、食物連鎖を通じた物質循環など、すべての生命の存在にとって欠かすことのできない基盤条件を整えています。

○暮らしの基盤

私たちは生活の中で、食べ物、木材、医薬品の原料などとして、さまざまな生物を利用しています。さらに、多様な生物は、生き物の機能や形態をまねた技術開発への応用、将来の農作物の品種改良など間接的・潜在的な利用の可能性があり、私たちの豊かな暮らしにつながる有用な価値を持っています。

○豊かな文化の根源

私たちは、自然を尊重し、自然に接することで、豊かな感性や美意識を培い、自然と結び付いたさまざまな文化を生み出してきました。多様な生態系は、地域色豊かな食、工芸、祭りなど地域固有の財産ともいべき文化の根源となっています。

○自然に守られる私たちの暮らし

多様で健全な森林は、山地災害、土壌流出の軽減や安全な飲み水の確保に、サンゴ礁やマングローブは津波の軽減に寄与するなど、多様な生態系は、私たちの暮らしの安全を保障することにつながります。

